

# COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

01 July, 2009

## IN THE HEADLINES



アルゼンチン

フェルナンデス・デ・キルチネル大統領は先の日曜日の中間選挙で惨敗を期した。正義党(PJ:ペロン党)は過半数割れとなり、彼女の夫である先代の大統領のネストル・キルチネル氏はブエノスアイレス州の得票で首位を保つことが出来ず、PJ党首を辞任することとなった。一方、2011年の大統領選の候補者となる可能性のある、ブエノスアイレス市長のマウリシオ・マクリ氏、前PJ党首のキルチネル氏の盟友カルロス・ルーテマンおよび副大統領のフリオ・コボス氏らが存在感を増してきた。大統領の権威は著しく弱体化したようにみえるが、新しい下院議会は12月まで開会せず、キルシュン夫妻がこの議会に対して、同意的か、対立的か、どちらのアプローチで対応するかについては分からない。



ホンジュラス

セラヤ大統領による、再選を可能にする改正を行うための(拘束力のない)国民投票を行おうという試みは、その動きが憲法違反であるとの最高裁判所の決定後、日曜日の軍部による大統領の追放につながった。(大統領の対抗勢力は、大統領自身が憲法に対する「クーデター」を行おうとしていると恐れていた。)大統領の追放は政治的に広範の政府、とりわけ米国より批難されている。まだいづらか妥協の余地はあるかもしれない(米州機構経由)、ない場合、ホンジュラスは公的な国際的な借入手段をなくすことになる。いづらか対外流動性のクッションはあるものの、選挙を乗り切り、国際的に認知される政府に認められることは難しいかもしれない。



インドネシア

現職のユドヨノ大統領は7月8日予定の大統領選において、前職のメガワティ氏、副大統領のユスフ・カラ氏との間で有利であるとされている。最大の問題は、初戦で当選するか、9月の決選投票が必要になるか、ということである。世界景気の後退に対してインドネシア経済が耐性を見せていることはこの一助となっている。実質GDPは第1四半期に予想外に強い、前年比4.4%で成長している。これは他の国に比べて良好なもので、多額の財政刺激策および食料と燃料価格の下落によって民間消費が5.8%伸びたことによるものである。



トルコ

実質GDPは2008年第4四半期に6.8%縮小したことに続いて、第1四半期に予想を上回る前年比13.8%縮小したが、この水準は公的部門の消費と投資が各々5.7%と24.6%と力強く伸びなければ更に縮小していただろう。民間消費は9.2%下落し、公的投資は35.8%落ち込んだ。輸出は11.3%下落したが、輸入は31.9%と大幅に落ち込んだ。統計によれば2009年のGDPは従前の予測であった4%の縮小を更に落ち込むことを示唆しており、財政赤字はGDPの5%を超える勢いである。この事態は依然として保留状態にあるIMFとのスタンプバイ取極の合意を更に困難にするかもしれない。

## ALSO IMPORTANT---



ウルグアイ

与党拡大戦線に所属する左翼の元ゲリラだったホセ・ムジカ氏と元大統領(1990-95)で民営化の強い支持者である国民党のルイス・ラカージェ氏は、先の日曜日に実施された予備選挙でその主要2政党における大統領候補として出現した。共に長年本命視されてきたが、共にその政党の急進派と連合しており、世論調査では現時点ではどちらも優勢となっていない。10月25日実施される選挙で勝つためには、どちらも中道に寄ってくることになるだろう。ムジカ氏は既に、彼の主要なライバルである尊敬すべき元経済大臣のアストリ氏に選挙戦を戦うための同志となることを要請する、と述べている。



ハンガリー

実質GDPは第4四半期に2.5%下落した後、第1四半期には前年比6.7%縮小した。国内の不景気を悪化させた予想外の対外経済の悪化を受けて、EUの支持を受けたIMFは2009年の財政赤字目標をGDPの2.6%から3.9%に上方修正することに同意した。しかし、これはバイナイ首相の下での厳しい引き締め策の緩和を意味せず(同首相は4月の不信任投票で辞任することとなったジュルチャーニ首相の後任である)、現政権はその政策は遵守する意向である。IMFは先週スタンプバイ取極の2回目のレビューを終了し、14億ユーロの貸出を実行した。

## COUNTRY REVIEW SUMMARIES



モザンビーク

モザンビーク解放戦線が政治を独占しており、内戦が終了した1992年来の複数政党の3選挙に全て勝利をしている。また、現職ゲブーザ大統領も年終盤にかけての選挙で再選される見通しである。貧困で援助依存であり、健康・社会問題(主としてHIV/エイズ問題)によって打撃を受けているにも関わらず、比較的健全な政策と債務削減の実施が2001-08の年間の平均成長率を8%としてきた。この成長率は、「メガプロジェクト」(ガス、アルミとチタン)への需要が減速することにより、2009-10年には3-5%まで減速すると見られる。対外流動性指標は今後2年間にわたり注意深く管理することを示しているが、必要になればIMFの支援は得られるだろう。



ロシア

世界的な原油価格の反転が、2月までは共に下落傾向を見せていた為替レートと外貨準備高を安定化させることに寄与した。しかし全般的な見通しは暗い。先行指標は実質GDPが第1四半期に前年比9.8%縮小した後、4-5月にかけて前年比10%縮小したことを示唆している。2009年全体では経済は7%程度縮小するだろう。現時点では限定的な効果しか上げていない強力な財政刺激策は、財政赤字幅を10%まで押し上げ、インフレ率はニケタ台に留まるだろう。全般的なカントリーリスクは依然として高く、民間対外債務が引き続き深刻な懸念事項となっている。

## IN BRIEF

メキシコ

中間下院選挙が7月5日に実施される。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.